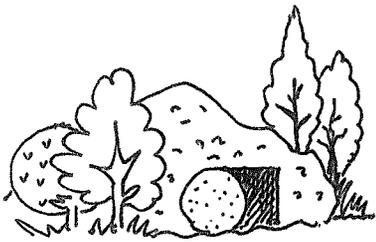




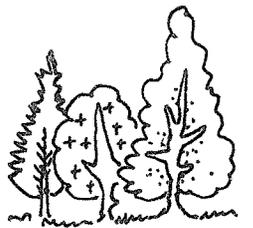
いずみのひろば

2022年5月号

日本基督教団堺教会
No. 520 教会学校



地の果てまで宣べ伝えよ



(マルコによる福音書16:9-18)

イエスさまは、亡くなられてから3日目によみがえられました。よみがえられたイエスさまは、まず、マグダラのマリヤさんの前に現れました。マグダラのマリヤさんは、死んだと思っていたイエスさまが生きておられたわけですから、もう、びっくりして、しかし嬉しくて嬉しくて、この喜びをイエスさまのお弟子さんたちに知らせることにしました。

「ぜひ、この喜びを、イエスさまが亡くなられて悲しんでいるみんなに知らせなくっちゃ。」

マグダラのマリヤさんは、急いで、ペトロさんや仲間のみんながいるお家へ走って行きました。ペトロさんたちイエスさまのお弟子さんたちは、イエスさまが十字架で亡くなられてから、怖くなって、ひとつの家に集まって、家の中にこもってカギを掛けていました。

「ねえねえ、たいへんたいへん。きょう、イエスさまのお墓へ行ったら、誰かがお墓の石を動かしてあって、お墓の中を見ても、イエスさまのご遺体がなくなっていたのよ。それでね、よみがえられたイエスさまがね、…」

ところが、お弟子さんたちは、マグダラのマリヤさんのいうことを全く信じません。

「うそじゃないわよ。ほんとにイエスさまがよみがえられたの。」

マグダラのマリヤさんは、イエスさまが生きておられることを喜びいっぱい一生懸命伝えました。よみがえられたイエスさまは、マグダラのマリヤさんの前だけでなく、エマオという村へ行こうとしていた二人のお弟子さんの前にも現れました。マグダラのマリヤさんと同じようにびっくりしましたが、だんだんだんだん嬉しさがこみ上げてきて、もう、嬉しくて嬉しくてたまらなくなりました。

「おい、ぜひ、一刻も早く、イエスさまが生きておられるということを、他のみんなに知らせようぜ。」二人のお弟子さんは急いで帰って、他のお弟子さんたちに一生懸命説明しましたが、他のお弟子さんたちは、イエスさまがよみがえられたなんて全く信じません。

イエスさまは、生きておられた時に、十字架に付けられて三日目によみがえられるお話を何度もしていました。なのに、不信仰なお弟子さんたちは、誰もそれを信じていなかったんです。お弟子さんたちは、イエスさまが何度もおっしゃっておられたことの意味を、全くわかっていなかったのでしょう。

突然、イエスさまが、その信じていないお弟子さんたちみんなの前に現れました。イエスさまは、よみがえられたことを信じていないお弟子さんたちの不信仰をお叱りになり、おっしゃいました。

「全世界に出て行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えなさい。」

お弟子さんたちは、よみがえられたイエスさまと会って、みんな嬉しくて嬉しくて、イエスさまのことを人々に伝え始めました。信じるということがどれだけ大切なことかということも、このことを通して、お弟子さんたちは学びました。

お弟子さんたちがイエスさまのことを人々に伝えるとき、なぜか、不思議と力が湧いてきます。イエスさまが、目には見えないけれど、お弟子さんたちと共に働いておられるからです。みなさんも、学校や幼稚園のお友達に、ぜひ、イエスさまのお話をしてみてください。きっと、みなさんも、力が湧いてくると思います。

イースターおめでとうございます。

(お話し 忠岡 博)